

平成 24 年度日本海ソデイカ(あかいか)漁況情報(中短期予報)

* 但馬地域の沿岸漁業にとって重要な対象種となっている「ソデイカ(あかいか)」について、現況と中短期的な漁況予報をお知らせします。操業の参考になれば幸いです。

現況と見通し(予報対象期間:平成 24 年 10~11 月)

【現況(～9月末まで)】

- ・漁況指標値(香住本所の 1 日 1 隻あたり漁獲量)は、9 月中旬以降 210kg 前後で推移。
- ・漁獲物のサイズは、9 月上旬時点では胴長 40cm 台後半のものが主体であった。
- ・9 月中旬以降は、別の小型サイズ(30cm 台が主体)の群れが加入し始めた。

【今後の漁況予報】

- ・今後しばらくは、サイズの異なる 2 つの群れ(胴長 50cm 台と 30cm 台)が成長しながら漁獲の主体となる。
- ・冷水域は、但馬沿岸域(～36° N 以南)に張り出す可能性は小さい。
- ・概ね 36° N 以南の海域で 100m 深の水温が 15°C を上回り、好漁場が形成される。

* 日本海西部海域の海況予測には、(独)水産総合研究センター日本海区水産研究所の日本海海況予測システム(JADE)を利用しました。(http://jade.dc.affrc.go.jp/jade/)

1. 漁況の推移 (図1)

漁況の指標としている JF 但馬漁協香住本所の 1 日 1 隻あたりの漁獲量(旬別平均値)は、8 月下旬～9 月上旬が 81～100kg、9 月中旬以降は 210kg 前後で推移しています。今漁期は、漁期当初から例年を上回る好漁が続いています。

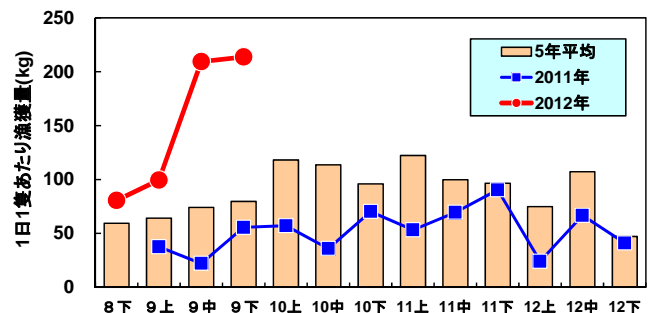


図1 旬別1日1隻あたり漁獲量の推移(JF但馬香住本所)

2. 漁獲物組成の推移 (図2)

但馬漁協香住本所での市場調査の結果、漁期開始時に最も漁獲されているサイズは、30cm 台後半～40cm 台前半(体重 2kg 前後)でした。それがイカの成長に伴い、9 月上旬には 40cm 台後半(3～4kg)、9 月下旬には 50cm 台前半(5～6kg)となっています。

また、9 月中旬頃から別の小型サイズ(30cm 台が主体)の群れが加入し始め、9 月下旬にはこの群れが 30cm 台後半まで成長し、最も多く漁獲されています。

今後は、現在 50cm 台の群れに加え、この 30cm 台の群れが成長しながら漁獲の中心となるものと考えられます。

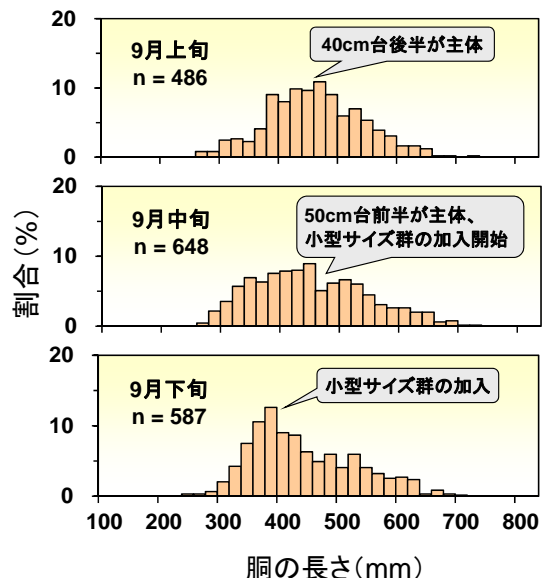


図2 漁獲物の体長組成

3. 漁場環境の推移 (図3)

これまでの調査により、**好漁場は水深 50m の水温が 19°C 以上、水深 100m の水温が 14~15°C 以上の海域に形成されること**が分かっています。また、この時期の山陰沖漁場の水温は、季節的な変動よりも沖合部に出現する冷水域の動きに大きく影響されます。

今漁期の 100m 深の水温の変化を「日本海海況予測システム」により予測しました(右図)。太い赤線で示した水温 15°C よりも沿岸側が水温条件を満たす「好漁場」となる可能性のある海域です。今年、漁期を通して冷水域がソデイカ漁場に張り出すことはないと予想されます。

9月の山陰沖では、但馬沖に 100m 深の水温が 15°C を上回る海域が 37° N 付近まで広がっており、ソデイカの漁場も沖合まで拡大していました。

10月中旬の但馬沖では、15°C の等温度線が 36° N 付近まで下がり、それより南側の海域で、100m 深水温が 15°C を上回ると予測されます。また、山陰・若狭沖の冷水域の張り出しはやや弱めで経過するでしょう。

11月上旬になると、15°C の等温度線はやや北上するものの、10月とほぼ同様の海域に漁場が形成されると予測されます。

また、冷水域や暖水域の影響により、海域によっては海流の向きに大きな変化(速い逆潮等)が生じる場合がありますので、操業時にはご注意ください。海流の予報については、当センターが毎週発表している「海の天気図」もご参照下さい。

4. その他

日本海区水産研究所の日本海漁況予報(2012年10~12月)では、対馬暖流域の表面水温は「やや高め~かなり高め」、50m 深の水温は「やや高め」で推移すると予測されています。

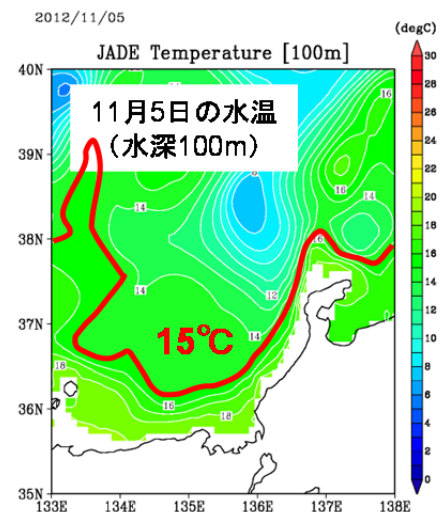
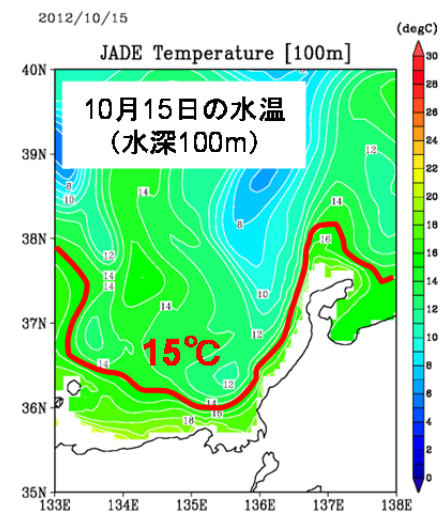
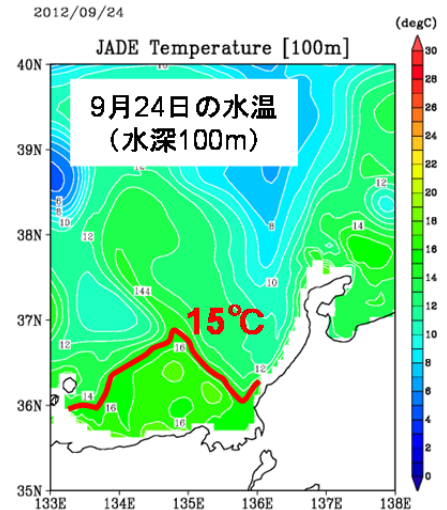


図3 水深 100m の水温分布予
(太線=水温 15°C の等温線)